



「笑顔とつながり」

永田台

サステナブルスクール

No.523 9月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和元年 8月30日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに

みんなちがって、みんないい

校長 武山 朋子

夏休み明けの初日、大きな荷物で登校してくる子どもたちを門のところで迎えました。久しぶりの学校です。元気な笑顔もあれば、ちょっとはにかんだ顔もあります。

「校長先生、久しぶり〜。」とハイタッチする子。

「見て見て、これ作ったんだよ。」と大きな袋を開けて見せてくれる子。

「メガネを替えたんだ。」と報告してくれる子。

一人一人を迎えながら、元気に学校に帰ってきてくれたことが嬉しくて、こちらもどんどん元気になっていきます。

でも、中には夏休みが終わってまた学校が始まるのが、しんどいなと感じている子いるかもしれません。そこには、大勢の中で過ごすことが苦手だったり、「みんなと同じ」ようにすることに抵抗を感じたりと、その子なりの理由があることでしょう。



夏休み明け最初の朝会で、私は子どもたちにピーマンとセロリとトマトの絵を見せてこんな話をしました。

セロリのおいが苦手な人は多くいますが、あの強い香りのおかげでスープに入れると味が格段に良くなります。トマトは噛むと中からぐにゅっと柔らかいところが出てくるから嫌いという人がいますが、それがあからおいしいトマトソースになるのです。ピーマンは中が空っぽだし苦いしという人もいますが、だからこそ肉詰めがおいしくできるのですね。

それぞれの野菜のその野菜らしいところが、実は苦手だという人はいるかもしれません。でも、もしそれがなかったら、野菜はみんな同じで味気ないと思いませんか。それぞれの野菜らしさこそが、その野菜のだいじな魅力なのです。

みんなにも、それぞれ違う自分らしいところがありますね。好きなことも、得意なことも、感じ方や考え方も、みんな違って当然です。むしろそれがとても素敵なところ、とてもだいじなところ。だから、自分と違う友達のこと、友達と違う自分のこと、それぞれをだいじにしてほしいと思っています。

右に紹介するのは、3年生の国語の教科書に掲載されている金子みすずさんの詩です。鈴と小鳥とわたしのそれぞれに、できることとできないことがあること。その上で「みんなちがって、みんないい」というこの詩に勇気づけられた人はたくさんいることでしょう。

夏休みが明け、これから多くの行事が待っています。そんな中でも、たくさんの違いが大切にされる学校であり続けたい、そう思っています。

わたしが両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが
飛べる小鳥はわたしのよう
地面を速くは走れない。
わたしがからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴はわたしのよう
たくさんうたは知らないよ。
鈴と、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい



わたしと小鳥と鈴と

金子みすず